

令和6年度 第2学期終業式式辞

長かった2学期も本日終業式を迎え、2024年、令和6年も残すところ、あと一週間となりました。皆さんにとって、どんな一年だったでしょうか。心静かに、この一年を思い返す時間をつくってみてください。

あらためて今年を振り返ると、元旦に能登半島地震が発生し、最大震度7、同時に津波が日本海側の各地に押し寄せ、能登半島には東日本大震災以来の大津波警報が発令されました。

9月には、復興に向けて一步を踏み出そうとされていたときに、台風14号による豪雨被害。能登の皆さんにとってはいたたまれない一年であったと思います。今なお避難生活をされている人々がおられます。皆さんとともにお見舞いを申し上げたいと思います。

世界に目を向ければ、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、3年近く経過した今も依然として続いています。

イスラエルとイスラム組織ハマスによるガザ地区での停戦協議も、これといった進展は見られていない状況にあります。

そうした情勢のなかであって、本当に喜ばしい大きな出来事がありました。

それは、10月11日、ノルウェー・ノーベル財団が、日本原水爆被害者団体協議会（略称：日本被団協）に、ノーベル平和賞を授与すると発表したことです。

先の大戦において、広島と長崎に原爆が投下され、命からがら生き延びた人々、いわゆる「被爆者」といわれる人々が、核兵器なき世界の実現と核兵器が二度と使われてはならないことを、本人たちの証言をとおして訴え続けられてきた「草の根運動」が評価され、ノーベル平和賞を受賞することになったのです。

このニュースを知ったとき、私は鳥肌が立つほどの喜びと感激がありました。なぜ、自分自身がそれほど嬉しかったのかよくわかりませんが、広島原爆資料館での展示をとおして知り得た被災の大きさ・痛ましさ、そのなかで80年近くの間、訴え続けられてきた人たちに対する尊敬の気持ちが、心からの喜びにつながったのかもしれません。

地道な運動が、証言が、世界中で核兵器に対する幅広い反対の声を生み出し、膨らませ、定着させることに貢献されてきました。そのことが、80年間、世界の様々な紛争において核兵器が使われたことはない、という事実につながっていると思っています。

同時に、ノーベル賞の受賞決定の瞬間の広島の会見場には、被団協の代表の方とともに高校生平和大使の代表者が同席をしていました。このことも私の感動を大きくさせたのかもしれません。

皆さんは、高校生平和大使のことを知っていますか。

1998年に長崎の高校生2人が、ニューヨークの国連本部へ派遣されたことが平和運動の発端となり、高校生平和大使の活動が始まりました。日本の高校生が核兵器廃絶と平和な世界の実現を求め、広島・長崎の声を世界に届ける目的で「高校生1万人署名」活動などをおこない、毎年、夏のジュネーブ軍縮会議にあわせて、代表を派遣しています。全国の都道府県で選ばれた大使が、各地域で署名活動を行っています。奈良県の高校生も2014年から参加しており、奈良県の代表生徒がジュネーブに派遣されたこともあります。本校からも興味のある人は、是非こうした運動にも参加してくれればいいなと思います。

高校生平和大使のスローガンは、「一人ひとりの力は微力だが、無力ではない」です。このスローガンのもと、若い人たちが、被爆された方々の思いをつないでくれていることが嬉しく頼もしく思っています。

もう一つ、喜ばしかったことは、やはりアメリカ大リーグでの大谷選手の活躍でした。

50-50の達成、MVPの選出など、輝かしい偉業を成し遂げました。彼のプレーの素晴らしさは言うまでもありませんが、私はその人柄、自分を常に律することができる考え方・生き方に感心させられ、学ばされてももらっています。

彼は、高校の時の監督から教えられたことを今もなお、心にとめ、実践しています。その教えとは「楽しいより正しいで、行動しなさい」ということです。自身の成長のために「何が正しいか」を自問して、楽しいことをやろうとする自分に制限をかける。それが大谷選手の生き方の基本となっています。

さらにこんな言葉も大切にしているそうです。

それは、「真剣にやっていたら知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言いつばかり」という言葉です。

この言葉は、武田信玄の言葉と言われており、大谷選手は、高校時代に読んだ本のなかから印象に残った言葉として寮のベッドに、手書きの紙を張っていたそうです。

この言葉の前後も含めて紹介します。

「実力の差は努力の差、実績の差は責任感の差、人格の差は苦勞の差、判断力の差は情報の差。真剣だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと言いつばかり。本気ですれば大抵のことはできる、本気でするから何でも面白い、本気でしているから誰かが助けてくれる」です。

皆さんは「楽しいことより、正しいこと」を選んでいきますか。ましてや、ダメなこと、許されないことをしていませんか。うまくいかなかったこと、結

果の出なかったことを愚痴ったりしていませんか。

私自身も反省すること、あります。

皆さんは昨日まで三者懇談でした。いろいろなことを考えたと思います、今一度、自身の行動の振り返り、少しでも良い方向に向けていけるよう、謙虚で素直な気持ちで年末を過ごしてください。

高皿生の皆さん、順調ですか。まさに「寸暇を惜しむ」という言葉を実感していると思います。心の健康、体の健康を第一に考え、もう少しこらえてください。

この冬、インフルエンザの大流行が懸念されています。皆さんが元気で冬休みを事故なく過ごし、よい新年を迎えてくれることをお祈りして、私の話を終わります。

以上